

令和7年度福岡県筑紫保健所運営協議会議事録（要旨）

- 1 日 時 令和7年8月21日（木）13：56～15：00
- 2 場 所 福岡県筑紫総合庁舎 2階大会議室
- 3 出席者 委員20名中17名出席、2名欠席、1名代理出席
事務局（筑紫保健福祉環境事務所）13名出席
傍聴者 なし

4 議事

（1）令和7年度筑紫保健所運営協議会各部会の報告について

- ア 救急医療部会 令和7年6月13日開催
- イ 保健事業部会 令和7年5月22日開催
- ウ 精神保健福祉部会 令和7年7月2日開催

今年度開催した3部会について事務局から審議結果を報告

【意見・質疑応答】

なし

（2）令和6年度筑紫保健福祉環境事務所各課系の事業報告及び主な取組について

- ア 総務企画課（企画指導係）
- イ 健康増進課（健康増進係、精神保健係）
- ウ 保健衛生課（食品衛生係、生活衛生係、感染症係）

事務局から報告

【意見・質疑応答】

なし

（3）その他報告事項

- ア 筑紫地区における「にも包括」構築に向けた取組について

事務局から報告

【意見・質疑応答】

なし

イ その他意見等

【意見・質疑応答】

（委員）

新聞で「ダニが媒介する感染症が蔓延しつつある」という記事が出ていたが、現時点での筑紫地区の発症状況と、患者は、何が原因か分らずに医療機関に行くと思うが、その時どのような医療機関でも対応できるのか、あるいは専門医がいる医療機関に行くのか、教えていただきたい。

（事務局）

筑紫地区では、今年度1件あった。患者は、ダニに刺された部位を把握できると思うので、吸口がある、黒いホクロのようなものがついていた、高熱等の症状を内科もしくは皮膚科等の先生に伝えていただければ鑑別できる素因になる。

（委員）

専門医でなくても、かかりつけの内科等で対応ができるということによろしいか。

（事務局）

まずは、山の中などを歩いたりするような趣味がある、虫にかまれた跡がある、

（体に）ダニがくっついていること、高熱等の症状を伝えていただけると、かかりつ

け医がダニ媒介感染症を疑い、必要に応じて専門の医療機関への紹介受診を検討することができる。

(委員)

最近では犬猫からの感染も報告されている。

実際にダニにかまれていなくても、犬や猫を飼っていて、その犬猫が外に出るような環境であれば、それも考慮された方がいいと思う。

実際、猫のSFTS（重症熱性血小板減少症候群）が数件出ており、猫からの感染もあるので注意した方がいい。

(委員)

ダニにかまれたかどうか分からない場合もあるということだが、そのような時に専門医を受診することになるのか。それとも、かかりつけの内科等に行っても対応可能と考えていいのか。

(事務局)

必ずしも専門医を受診しなくても、症状や血液検査の結果から、おそらく一般の開業医でSFTSが疑われれば、その時点で保健所に相談がある。

また、一度総合病院等を紹介、再度詳しい検査を実施してから保健所に相談という場合もある。

住民の方々については、まずはかかりつけ医に相談いただくことになる。

(委員)

非常に多いと言っても、インフルエンザのような流行り方ではないので、実際には、内科の開業医でも患者を診たことがない先生がたくさんいると思う。また、患者が「虫刺されたよ」と言って来られるとは限らない。

住民の方々へのある程度啓発が必要ではないか。例えば、山の中に入った後、高熱等症状が出た場合、まず何かに刺されてないかどうかを確認してみる。そして、黒い斑点のようなものが体にくっついていたら、もしかしたらダニかもしれないことを疑う。このような内容を広く周知する。これは、国や県レベルで何らかの形で啓蒙すると思う。

その上で、患者が「そうかもな」と思って受診するのは、医者にとっても何かとアプローチしやすい部分がある。

また、ある程度経験のある医者にかかった方が手堅いのではないか。例えば、皮膚科の先生方は、何か変なできものができたぐらいの感じで来られた患者を、経験として数多く診ている。

(委員)

資料の「困難な問題を抱える女性の支援のための連携の充実」について、令和7年度の取組の中で、実務担当者会議及び筑紫地区ブロック会議の実施とあるが、これの展望について、また、エイズ等性感染症の発生数だが、福岡県は性感染症が減っていないため、その対策を聞きたい。

(事務局)

今年の取組として、困難な問題を抱える女性等支援調整会議筑紫ブロック会議とその実務担当者会議とあるが、実務担当者会議については、先月、各管内市の人権関係課、あるいは子育て関係課、警察関係、女性相談関係団体等と実務担当者会議を開き、今年度発生した相談、当所で取扱った対応事案を皆さんと共有し、連携を図ったところである。

ブロック会議については、実務担当者会議を受け、秋頃に開催予定で計画している。

(事務局)

性感染症については、既に保健所において性感染症相談、梅毒やH I Vの血液検査、クラミジア等の尿検査を実施している。

当所で実施した検査陽性者については、医療機関への受診勧奨を行っているが、検査結果を見てみると、梅毒がかなり増えている。

実際、届出がある梅毒患者については、ここ数年、報道のとおり非常に増えており、これについては県の方でホームページ等を通じて、保健所で無料検査を実施していることを広報している。

H I Vについては、患者と関係者の方がいる場合、医療機関から届出があるが、印象としてはここ数年同じくらいの状況（発生数）が続いている。

(委員)

保健所で実施している性感染症検査は無料でできるが、なかなか若い人に届かないという焦りを感じている。また、世界的には性感染症は緩やかに減っているが、なぜか日本、そして福岡は減っていない。関係機関と連携して広報をしていただきたい。

(委員)

このところ、コロナ禍のオミクロン株変異株のニンバスというのが少し増えてきたことで、コロナを予防するために、これまでどおりの感染症対策でいいのか。

また、ニンバスが筑紫地区で流行しているのか教えていただきたい。

もう1つ、はしか（麻疹）も増えているが、先日報道で、はしかにかかった患者の行動歴に関する情報が出ていたが、学校で発症した場合、患者の感染経路のようなものを学校で調べなければならないのか。

また、学校にいる児童生徒がはしかにかかった場合の情報は、どのように流れてくるのか教えていただきたい。

コロナと違い、はしかは、マスクでの予防ができないと聞いたことがある。はしかにかからないようにするためには、どのような予防策があるのか教えていただきたい。

(事務局)

まず、コロナについては、8月に入ってから県全体で見ても少し増加傾向にある。

コロナの感染予防、特に高齢者の重症化予防という意味では、高齢者のワクチン接種の推進があるが、現在は、かかっても高熱が出るわけではなく、一般のかぜ様症状のような状況になっている中で、以前のような感染対策を徹底していくような状況ではない。現状は、重症化するような高齢者に対するワクチン接種や感染予防を推進している状況にある。

次に、麻疹については、学校で患者が発生した場合、行動歴についての確認は保健所職員が行い、家族、担任の先生等に直接聞き取りをして、行動歴を確認していくことになる。

ワクチンを接種していなければ、100%発症をする感染力が非常に強い感染症であるため、まずは学童期であれば2回接種、通常は接種済だが、諸事情により未接種、あるいは接種の機会を延ばしたことで1回しかできていない方がいる場合には、費用はかかるが、任意接種でも2回接種した方がいいのではないかという啓発をしていただくこと、とにかくワクチン接種というのが一番の防御策だと思っている。